



歴史あるまちで 青年部出身の会頭から、 「もつと商売っ気を出せ」と 発破をかけられるワケ

江戸時代から続く運河のまち、半田市。醸造文化と繊維産業で栄え、現在も商業、製造業、農業を中心に発展する。地域の経済活動を支える半田商工会議所は、2023年に創立130周年を迎えた。歴史あるまちで育む、半田商工会議所と半田YEGの関係性を探った。

現会頭はYEG会長の経歴あり 商いのまちに変わらざる寄り添う

半田市は江戸時代から続く商業のまちだ。港湾都市の特性を生かした工場立地を推進し、時代の流れに合わせてイノベーションを繰り返してきた企業が数多い商都である。その商いのまちに設立された半田商工会議所(以下、親会)は、昨年、創立130周年を迎えた。愛知県で4番目、全国では38番目に設立された歴史のある商工会議所だ。小柳厚専務理事によると、最も古いもので1920年の会報誌が現存しているそうだ。過去も今も、激変する世界市場で生き残るために変革を続ける地域の事業者たちに、変わらず寄り添い支援を行う親会の姿が記録されているという。

経験者、YEGの周年事業やさまざまな事業の場面で伝えて還元してきた。そう話す久松宏行YEG専務理事の顔には、一大事業に貢献した自信がのぞく。

親会の大きな事業を経験したYEGは、今後どう活動していくのか。森下達夫会長は、「60周年という節目の年。今年のスローガンの『社業繁盛』は、YEGの綱領・指針だけでなく、親会の方針でもあります。YEG活動を通じてしっかり社業を伸ばし発展させていくとともに、原点に返る気持ちも忘れていこう。原点を返る気持ちは忘れないようにしていきたい。人のつながりや地域の輪を広げるとは、人と人とが心合わせをするということ。対面だからこそできることを大切にYEG活動を進めていきたい。経済団体であるというYEGの存在についてしっかりメンバーとともに考えて、周年という節目だからこそ、どんな事業も社業につなげてもらいたいという思いで改めてスタートしていく」と意気込む。YEG会長経験者が会頭であるという情意投合の機会を生かし、親会から「商いの心」をしっかり受け継ぎながら活動していく姿勢を感じた。

未来に引き継ぐべき
変わらぬ良き
こうした共同事業を行うことに

会頭は会長時代を振り返る。

一丸となって臨んだ記念事業 心合わせを社業繁盛につなぐ

そんな半田商工会議所は2023年11月24日、130周年記念事業として記念式典と祝賀会を開催した。その際、大いに活躍したのがYEGと女性会のメンバーだったという。受け付けや駐車場の整理、式典の進行などをYEGが務め、受け付け後のリボン渡し、クローク、祝賀会のサーブ

今年度のYEGフラッシュは、商工会議所(親会)とYEGの良好な関係をご紹介します。タイトルの「藍と青」は、渋沢栄一翁の生家の家業が藍農家であったことから、藍を親、青をYEGとし、一般的にいわれる師弟のことでなく、「君子曰く、学は以て日(や)むべからず(学問は中断してはいけない。努力すればするほど精進されて優れたものになる)」という本来の意味に立って取材します。



親会が主催する130周年記念事業では積極的に協力



親会、女性会、YEGが一丸となった130周年記念事業の祝賀会

歴史として変わっていない良いところ。もつと商売っ気を出せと言いつづけています。その活動が中小企業を元気にさせ、地域を活性化させ、消費が広がることにつながる。YEGメンバーの一人一人が地域を支える青年経済人たることが重要だと松石会頭は力強く答えた。

またYEGが親会から多大な協力を得て取り組んだ「半田働楽(はたららく)子どもマルシェ」事業は、地域の子どもたちを招待した職業体験事業である。会場である商工会議所敷地内をまちと見立て、花屋さんや鍛冶屋さん、中には公務員など、子どもたちは思いの仕事を就く。名刺を作成して配ったり、実際のお金を使い給料を出したりするなど、かなりリアルな体験ができた参加者から好評を得た。「子どもって、地域にこういう事業が

などは女性会が担ったそう。親会の中で130周年特別委員会という組織をつくり、そこを中心にYEGと女性会にぜひ一緒に手伝ってほしい、職員も一丸となってやってほしい。行事の実施だけで終わってしまうのではなく、皆が130周年を共にしたいという気持ちを持っていただきたいとお願ひしました。こうした総出のお願ひに「これはすごいね」と評価していただきました。半田を知ってもらいたい機会になりました」と松石会頭は目を細める。

大きな事業を行うおとすればそれだけ準備が増える。困ったときに役に立ったのは先輩の助言だったという。「親会にはYEGのOBも多く、顔が分かるので話をしやすい。先輩の経験値で助言をくれるし、勉強させていた

あることを知らない。これを通じて子どもたちが将来のことを考えるきっかけとしてほしい」と森下会長は話す。歴史ある商いのまちで育む「商いの心」は、こうして世代を超え引き継がれていく。



子ども育成事業でも親会とタッグを組んだ



松石会頭(左)との関係も良好な森下会長



編集後記
内山 泰伸(さいたまYEG)
「藍と青」をご覧いただき、ありがとうございます。また、半田商工会議所の皆さま、および半田YEGの皆さま、取材へのご協力ありがとうございました。半田YEGは当委員会藤野道子委員長が所属する単会です。全てにおいてパワフル、エネルギーな委員長がどのように誕生したのか、取材を終えて分かりました。この半田のパワーを、ご購入いただいている皆さまにも受け取っていただければと思います。元氣玉ー!!!!

半田商工会議所
会 頭：松石 幸之
会 員 数：2412人
創 立：1893年
住 所：愛知県半田市銀座本町1-1-1
スローガン：「レジリエンス」共に生き、共に栄える」

半田YEG
会 長：森下 達夫
会 員 数：148人
創 立：1993年
スローガン：「社業繁盛」咲き誇れ！
「GROW UP HANDA YEG」

HPIはこちら

HPIはこちら